

日本ラテンアメリカ学会

会 報

No. 4

1981年6月1日

第4号 目次

1. 理事会報告
2. 学術・文化情報
3. 事務局から

ラテンアメリカ研究センター
めぐり

1. 第5回 理事会報告

1981年4月18日、6名の理事出席のもとに開催され、理事長による事務局活動報告の後、1981年度大会の組織方針を中心に審議を行った。

○第4回理事会以降の事務局の主要な活動は以下の通りである。1) 会報第3号の編集・発送、2) 年報第1号編集会議の開催、3) 第2回定例研究会案内の発送、4) 1981年度大会臨時準備委員会の召集と大会プログラム原案の作成、5) ブラジルへのあいさつ状発送、6) 国内関連諸機関への会報サンプル送付、7) 1980年度決算報告書の作成。

○審議事項は以下の通りである。

- i) 入会を希望した7名について書類を検討した結果、うち5名を正会員として、他の2名を準会員として、入会を承認した。賛助会員として入会を希望した一財団法人の入会も、あわせて承認した。賛助会員の募集に努力することを決定した。
- ii) 準会員と正会員の区分に関して、会則第2章第6条2項の「住所」を、「生活の本拠地」と理解する。従って、生活の本拠地が半永久的に海外にある者は準会員とし、

また一時的に海外に滞在する者は正会員とする。一時的に海外へ留学もしくは出張する会員は、正会員としての権利・義務を保持することとした。

iii) 1981年度大会におけるシンポジウムは、「1980年代のラテンアメリカ」をテーマとして組織し、細野昭雄、加茂雄三、アンドラーデ、吾郷健治の各氏に、パネラーとなることを依頼する旨決定した。研究発表は人文、社会、自然科学別の三つの部会を三会場ですべて同時進行させることにし、報告希望者全員に、一人20分間の報告時間を割りあてることにした。

iv) 第3回定例研究会を、10月頃開催するとともに、小研究会・講演会等も積極的に組織するように努力する旨決定した。

v) 会報の編集方針について、以後会報はできるだけ情報記事を多くし、論評を含むものは年報に回すこと、また、理事や各分野の会員に委嘱して各分野の情報を収集するシステムを作る努力をすることを決定した。

vi) 学術会議への登録申請を秋までに提出するように準備を開始することにした。

vii) 増田理事長の海外出張中(6月末～10月)、会則第15条3項に従い、山崎春成理事が理事長代行を務める旨確認した。

学会シンボル・マークの募集

将来、学会の便箋・封筒や発行物に使用するシンボル・マークを会員の皆様から募集することになりました。ラテンアメリカにふさわしい図案のアイデアを、是非事務局までお寄せ下さい。

京都外国語大学のラテンアメリカ研究組織は、イスマノアメリカ研究室(1963年)、ブラジルポルトガル研究室(1967年)、ブラジル文化研究センター(1967年)とメキシコ研究センター(1980年)から構成されている。同センターは昨年開館された本学の「国際交流会館(地下1階地上7階)」の5階に設置されており、カルメン・ロマーノメキシコ大統領夫人のテーブルカットで開設された。研究員はイスマニア語学科とブラジルポルトガル語学科の教員と、総合研究所のスタッフ若干名である。1971年からは学内に「在京都メキシコ名誉領事館」が開設されたため、メキシコ政府関係資料の入手に便宜が計られている。

○研究活動

ラテンアメリカ地域研究は、個別研究と共同研究とに分かれており、研究成果は所属学会で発表される以外に、年2回の学内研究発表会で報告されている。現在、メキシコとブラジルが重点的研究対象圏となっているため、ブラジル北東部のバイヤ州を中心とした民族学の資料室と、マヤ・アステカ古代文明の出土品(ラ・ベントの巨人石頭やコーヨルジャウキの実寸大の複製も含まれている)の展示室も設置されている。両地域の研究分野は言語・文学・歴史・文化・経済・政治と多岐にわたっているため、国内の研究機関をはじめ、ラテンアメリカ諸国の本学との姉妹大学および、各種研究所と連帯して研究を進めている。研究員も学内外の留学制度を利用して毎年各国に派遣している。外国人研究者も随時本学に招聘し研究活動を充実させている。昨年メキシコ研究センターとブラジル文化研究センターでは招聘教授による特殊講義〔Dr. Alvaro Romo:メキシコのスペイン語(グアタハラ自治大学)〕や講演会〔Dr. Ismael Sánchez Bella:インディアスへの巡察使(スペイン・ナバラ大学), Dr. Mesa Lago:アメリカに於けるメキシコ研究の現状(ピッツバーグ大学), Dr. Alvaro Romo:グアタハラのスペイン語(前述)〕等を開催し関西地区のラテンアメリカ研究者には案内状が出された。

○図書・出版活動

現在ラテンアメリカ全般の研究図書は約3万冊を数え、本学附属図書館発行の「イスマニア語・ポルトガル語蔵書目録(1974年刊行研究誌一覧表も収録)」、「ラテンアメリカ関係稀観本展示目録(1978年)」、ラテンアメリカ関係図書目録(1979年)、メキシコ関係図書展示目録(1980年)等に収録されている。近刊書や図書案内は「GAIDAI BIBLIOTHECA」(季刊)に掲載されている。地域研究誌としては「COSMICA」(1971年創刊)がある。なお、ブラジル文化研究センターでは「バイヤ民族資料」を1968年に刊行した。また、メキシコ研究センターの資料室には、S.E.P.やF.C.E., U.N.A.M.などの刊行書籍がコレクション別に分類され開架閲覧方式がとられ、学内外の利用者へも一般公開されている。研究図書に関してのレファレンスサービスやコピーサービスは附属図書館を通じて受付けている。目下、ラテンアメリカ研究の広報普及誌の発刊と研究図書の出版、翻訳事業が検討されている。

○国際交流会館

スペインやラテンアメリカ諸国をはじめ世界各国の学生を受け入れる「留学生別科」が設置されている外に、会議室(学会・講演会用)、展示ルーム、コンサート、レセプションホール、ゼミナール教室などが完備しており、ラテンアメリカ研究者等にも広く利用されている次第である。

○研究員(順不同)

- 森田嘉一 教授(メキシコ研究センター所長)
 - 大垣貴志郎 教授(歴史学)
 - 坂東 省次 講師(イスマニア語)
 - 川崎 桃太 教授(ポルトガル語)
 - 古野 菊生 助教授(文学)
 - 住田 育法 講師(歴史学)
 - 田所 清克 助手(文化地理学)
 - 中屋 健式 教授(歴史学)
 - 今西 正雄 教授(経済学) 併任
 - 松本 幹雄 教授(人類学) 併任
- (大垣貴志郎 記)

2. 学術・文化情報

i) ラテンアメリカ政経学会関東部会研究会
5月30日上智大学7号館12F第1会議室で開
催された。テーマおよび報告者は次の通りで
ある。「ラテンアメリカの工業化— 財閥的
企業集団: アルゼンチンとブラジル」今井圭
子(アジア経済研究所)および小池洋一(ア
ジア経済研究所)

ii) スペイン史学会からのお知らせ
石原保徳著「インディアスの発見— ラス・
カサスを読む —」 著者石原氏を囲んでの
合評会 コメンテーター: 青木康征(神奈川
大学)および松尾佳枝(東京都立大学) 6月
13日2時半より 於上智大学7号館12F第
4会議室

iii) Regional Impacts of Mexico-
United States Economic Relations
第1回会議 1981年6月21-26日 問い合わ
せ先 Dr. Alfonso Corona Reteria,
Calle de la Hondonada 93, Parques
del Pedregal, México 22, D. F. Tel(5
-68-79-29)

iv) メキシコ・アメリカ歴史研究者第6回会
議 問い合わせ先 Prof. John H. Coatswor-
th, Center for Latin American Stu-
dies, The University of Chicago,
1126 E. 59th Street, Chicago, Illi-
nois 60637, U. S. A.

v) 訪日者リスト

○1981年度国際交流基金招聘者

〔短期〕

Azamor, Francisco Oscar(ブラジル・56才)
15日間 ブエノス・アイレス大学文学部主
任教授(古代美術史専攻) 伝統美術および
建築を中心とした文化事情の視察

Guerrini, Iríneu, Jr.(ブラジル・36才)
5月23日~6月6日 サンパウロ州立公共
ラジオ・テレビ局国際部部长 ラジオ・テ
レビ放送の実情視察および視聴覚教育番組,
音楽番組につき関係者との意見交換

Maria Teresa, Matiauda De Giamor-
tti(パラグアイ・44才)15日間 ヘネ
ラル・パトリシオ・エスコバル・エンカ

ルナシオン地方教育センター校長 エンカ
ルナシオン市議会議長(教育行政) 教育・
文化事情の視察および図書館運営につき関
係者との意見交換

Márquez, Gabriel García(コロンビア
53才)14日間 作家(文学) アジア・アフ
リカ・ラテンアメリカ文化フェスティバル
参加のため

Martin, Ruby Elizabeth(ジャマイカ・
44才)15日間 生花インターナショナル
・キングストン支部長(社会文化事業) 伝
統芸術・社会事業・文化行事の視察および
環境保全問題につき関係者との意見交換

Matos Mar, José(ペルー・59才)15日
間 ペルー問題研究所所長(人類学) 日本
ラテンアメリカ学会出席および農村問題に
つき関係者との意見交換

Ribadeneira, Edmundo Meneses(エク
アドル・60才)15日間 国立文化会館館
長・国立エクアドル中央大学副学長(文学)
教育・文化事情の視察および美術館・博物
館関係者との意見交換

Sangines, Carlos Ponce(ボリビア・55
才)15日間 国立考古学院院長(考古学)
社会・文化事情の視察および考古学分野の
交流につき関係者との意見交換

Trois, Stella Dos Cherubins Gui-
maraes(ブラジル・50才)15日間
連邦直轄区教育財団理事・教育部長(教育
・地理・歴史) 教育制度・社会事情の視察

Uslar Pietri, Arturo(ベネズエラ・74
才)15日間 ベネズエラ中央大学経済学部
名誉教授(政治学・経済学・文学) 社会・
文化事情の視察および文化関係者との意見
交換

〔長期〕

Shizuru, Jorge H.(メキシコ・50才)
メキシコ国立自治大学建築学部教授 日本
建築の伝統的技法 1980・9-1981・9(受
入機関九州芸術工科大学)

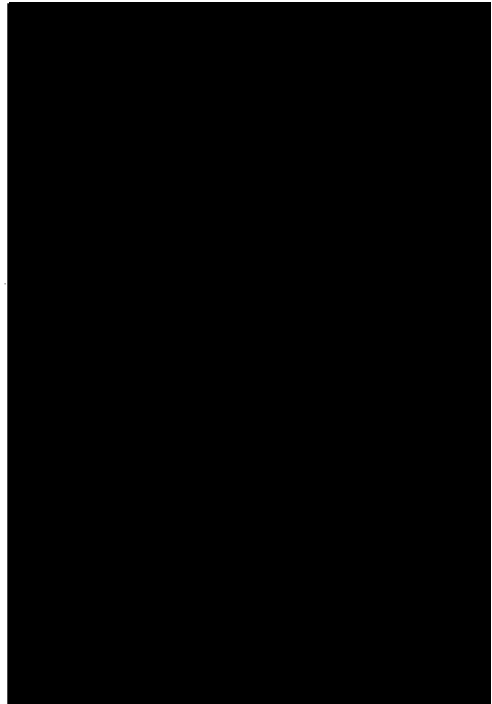
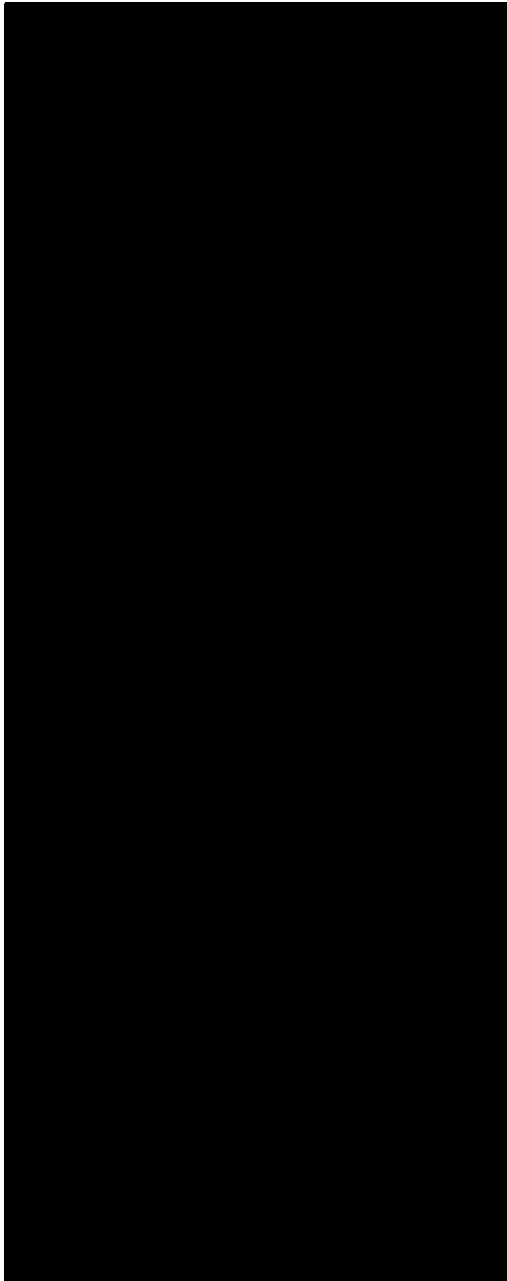
Sologuren, Javier(ペルー・59才)
国立農業大学教授・作家(スペイン文学・
スペイン語学・日本文学) 好色五人女の翻
訳および井原西鶴とその時代の研究 1981
・4-8月(受入機関 東京大学教養学部)

Mesa, Virginia(メキシコ 34才)
メキシコ国立自治大学アジア語学科長 日
本語擬音語擬態語の研究 1981・5月-
1982・3月(受入機関 国立国語研究所)

Hirata, Helend Sumiko (ブラジル・
34才) フランス国立開発調査センター社
会研究所研究員(社会学) ブラジルにおけ
るフランスおよび日本の企業の比較研究
(労働機構を中心として) 1981・10月-
1982・3月 (受入機関 アジア経済研究所)

3. 事務局から

i) 会員名簿記載事項の修正・変更



ii) 住所、勤務先等の変更がありましたらお
知らせ下さい。海外に長期滞在される場合にも、
滞在先住所と合わせて、その旨御通知下
さい。

iii) 1981年度会費(正会員5千円, 準会
員15ドル)を未納の方は, 下記のいずれか
へお払い込み下さい。

- 郵便局振替口座 東京1-13630
(日本ラテンアメリカ学会名義)
- 第一勧業銀行渋谷支店普通預金口座12
62358(日本ラテンアメリカ学会代
表増田義郎名義)

No4 1981年6月1日発行
日本ラテンアメリカ学会事務局
〒153 東京都目黒区駒場
3-8-1
東京大学教養学部第8本館
中南米分科気付
☎(467)1171
内線 581